

洛東園 だより

■平成23年4月発行 社会福祉法人 洛東園
■発行責任者:木村晴恵
■〒605-0981 東山区本町15丁目794
■電話番号:561-1171 ■FAX:531-8372
■ホームページアドレス <http://www.wf-rakutouen.com>

新たな一歩

修道 洛東園 施設長 菱田 俊也

平成23年4月、京都市内で高齢化率の最も高い東山区において、全室個室の新型特別養護老人ホーム『修道 洛東園』を開設致しました。

計画当初より、地域の皆様からは、ひとかたならぬご厚情を賜り、定期的に説明会を開催し、貴重なご意見、ご理解を頂きながら、地域環境や周囲との景観、調和にも配慮した施設づくりをすすめることができました。厚く御礼申し上げます。

『修道 洛東園』は「古都京都の今に通じる日本の美」「地域交流」「個性の尊重」を建築コンセプトとし、全72室、8ユニットから構成されています。

施設名につきましては、地域の皆様からご意見を募り、「修道」という地名をぜひ入れて欲しいという要望を受け、『修道 洛東園』と決めました。ユニット名は、京都の美を象徴する、平安時代の源氏物語から命名しました。

施設内にはボランティアルーム、地域交流広場、喫茶室などがあり、利用者やご家族、地域の皆様にも利用して頂きやすいよう、工夫いたしました。1ユニットが9人

前後の少人数ケア体制となっており、ユニット専従職員との馴染みの関係の中で、利用者一人ひとりの意思や個性、生活リズム、家族との絆や住み慣れた地域とのつながりを大切に、「自分が、あるいは自分のかけがえのない人が利用したい、そこで暮らしたい。」と思って頂けるような施設づくりに取り組んで参ります。

東山区の新たな拠点として、皆様のご支援ならびにご協力を賜りながら、地域の一員として、新たな一歩を歩んでまいります。どうぞよろしくお願い致します。



修道 洛東園 完成予想図

鉄筋コンクリート造地下1階、地上4階建て
建築面積 1,113.36平方メートル 延床面積 3,786.90平方メートル
敷地面積 1,914.71平方メートル

洛東園の理念

- ◎個性・自主性を尊重し明るい温もりのある生活
- ◎安全と快適な暮らし
- ◎地域に根ざした開かれた施設

進むべき道

社会福祉法人 洛東園 園長
木村 晴恵



私の人生において、「進むべき道」を多くの
方々よりご教示いただき、「今ここに自分がい
る。」とつくづく思います。その通ってきた「道」を
ご紹介させていただきます。

一つ目は、昨年9月に亡くなった父が、私の頬
をぶって叱ってくれたことがありました。亡くなっ
た父は、親戚や近所の方々から「仏のともさん」
(名がともえ)と言われたほど「穏やかな性格」の
人物であり、多くのものを私に与えてくれました。
確か私が小学校5年生の頃、ある出来事があり
ました。その時、父は私の頬を思い切り叩きま
した。先述したように昨年92歳で亡くなりました
が、後にも先にも「その1回」だけでした。その結
果、私がどうなったかご想像におまかせします。

二つ目は、21歳の頃の私は「山登り」に夢中で
した。友人3人のチームで長野県白馬岳の雪渓
登りに行った時の事です。あいにくその日は霧が
濃く、全く周囲が見えない状況でした。3人が一
列に並んで、安全に歩けるよう雪渓の表面に赤
いペンキが道に付けられ、それを目印に歩いて
いました。確かその時先頭を歩いていたのが私
であったと記憶しています。

濃霧のために衣服は濡れ、寒さと疲れでへと
へとになりながら登っているうちに、少しずつ
ルートから外れてしまっていたようです。そのと
き、後ろに登っていた友人が「よく見て! 元の

ルートに戻りなさい。」と私に声を掛けました。そ
の声で元のルートに戻ったその時でした。「ゴロ
ゴロゴロ!どすん!」と大きな音がしました。大きな
落石でした。私たち3人の横を通り過ぎて行った
のでした。その声がなかったら、3人とも大きな
石に潰されていたことでしょう。

三つ目は、「介護」という「道」を通ってきたこと
です。「看護」の道も相当険しかったと看護師の
方々からよくお聞きしますが、職業として「介護」
の道も本当に険しく、イバラや石ころが一杯だっ
たように記憶しています。そのような道を進まな
ければならないときに、「イバラを踏んで痛くて
困っている私に、痛みが和らぐ方法を教えて下
さった方々」「踏まないよう回り道を教えて下
さった方々」等々によって、40年間「介護の道」
を歩み続けることが出来ました。振り返ると、こ
の道が一番長く険しいものだったように記憶して
います。

でも、今、言える言葉があります。どなたかが
言っておられましたね。

「どの道も、通り過ぎれば花盛り。命があれば
儲けもの。」そして「多くの利用者の方々と職員
との御縁」と「修道 洛東園」という大きなお土産
が残りました。

訪問介護 大和大路



99歳の一郎さんは、生まれ育った家でずっと暮らしてこられました。ご本人、ご家族共に、「これからここで、自分のペースで暮らしていきたい。」との思いをお持ちです。

ご自宅では、お一人では動くことが難しいため、ベッドの上でテレビや本を見て過ごされています。馬が大好きで、テレビに映ると、嬉しそうな表情で「いい馬ですね。」と仰います。

週1回のデイサービスと、月1回病院へ行く時、車椅子を介助してもらって外出するのを、楽しみにされています。

朝、ヘルパーが訪問し、着替えてもらった後、一郎さんが馬の思い出と共に、大正時代の大和大路について話してくださいました。

「私が若い頃は、馬に乗って出かけ、家の前に繋いでいた。その頃の大和大路は、まだ整備されておらず、土や砂利道を走っていたんだよ。」

外出の際に、満足そうな表情でうなずいておられる時があります。当時と変わらない景色を見つけて、安心したり満足されているのだろうと思いました。

79歳の和子さんは、ご主人を亡くした気持ちの落ち込みと腰痛のため、一人での外出ができなくなっておられました。ご家族の支えと、週2回のデイサービス、通院のためにヘルパーが付き添うことで、徐々に外出ができるようになりました。

た。毎週1回、ヘルパーが付き添って病院へ行く時は、手押し車を押して出かけます。今では、手押し車の操作にも慣れ、景色を見ながら歩く余裕も出てきておられます。

そんな和子さんが、ヘルパーと歩く道中、子供さんとの思い出と共に、昭和30～40年代の大和大路を教えてくださいました。

「私の子供が幼い頃は、子供と一緒によく外で遊びました。特に近所の公園や神社がお気に入り、他の子供もたくさん集まっていた。この通りを『はよう、はよう。』と、子供に引っ張られて歩きました。この道を通ると、その頃の思い出が浮かんできます。」

「約50年暮らしていますが、道が整備され、私みたいに車を押しても歩きやすくなりました。見違えますね。それでも、100年程経つ建物もまだたくさん残っているのよ。私もいつの間にか歳を取りました。」

現在では、病院の帰り道に買い物をして、ご近所の方と挨拶したり、思い出の公園や神社の前を通るのを楽しみにされています。

外出に付き添い、同じ歩調でゆっくりと歩いていると、ひとつの通りにも利用者さんそれぞれの思い出が詰まっており、昔の町の様子と利用者さんの新たな一面を知る事ができます。これからも利用者さんとの外出の機会を大切にしていきたいと思います。

□ 地域包括支援センター 地域と共に進む道

今年1月7日金曜日、京都ホテルオークラにて、「平成23年京都市社会福祉大会」が行われました。この大会は、市と市社会福祉協議会の主催で、社会福祉の推進に功績のあった方等の表彰、大会宣言の採択、成年後見制度の講演会が行われました。

この度、洛東園関係者では、配食サービスに携わるボランティアの方々「月輪ファミリーの会」が、社会福祉事業協助者として京都市長から表彰されました。また、施設職員の2名も、社会福祉特別功労者として、社会福祉協議会会長より表彰を受けるという、喜ばしい出来事がありました。

※配食サービスとは…高齢者の方々に昼食を配達すると同時に安否確認を行い、在宅生活の維持及び福祉の増進を図る事を目的とした京都市の委託事業です。

この表彰状は、洛東園デイサービスの玄関フロア右手に掲示してあります。お立ち寄りの際は是非ご覧下さい。



～ファミリーの会よりのコメント～

かねてより、なにか地域のためにお手伝いできないかと思っておりましたとき、洛東園より地域のお年寄りの方達への配食を手伝ってもらえないかとのお話がありました。私達にできるかもしれないと声を掛けたところ、五、六名の方が賛同してくださいました。

「ファミリーの会」と命名し皆様のご協力を得ながら、助け合って二十年間続ける事ができました。おかげさまで今年の京都市社会福祉大会に於いて「ファミリーの会」を表彰して頂きました。ここに皆様に深く感謝してご報告をさせていただきます。

ボランティアの輪は現在、月輪学区に留まらず、一橋・今熊野・貞教学区等にも広がっており総勢14名の方々が日々活動されています。

この表彰を通し、地域とのつながりが希薄になりつつある今、洛東園が果たすべき役割を、私たち職員一同も再認識することができました。これからも、地域のためにとの志のもと、一緒に活動してくださっている全ての皆様に感謝し、共に進んで行きたいと思いをします。

□ 養護老人ホーム 歩み

養護老人ホームに入所されている武男さん。洛東園のご近所にお住まいの方は、一度は見かけられたことがあるのではないのでしょうか。毎朝6時頃から7時頃まで、「門掃き」を行っておられます。ご近所の方々より、よく朝の挨拶をして頂いているため、この場を借りて感謝を伝えたいとのことです。

どうして毎朝早く起床し、門掃きを行っているのかを尋ねました。

「いつからかと聞かれても、気が付いたらしていたという感じやな。多分、以前していた仕事の影響かな。主に建設業で仕事していたからな。建設業は朝が早いし、作業前に掃除をしていたから、その影響で続いているかな。朝早く起きるのも、若い頃からの習慣みたいなものやから苦にはならない。」と話され、今まで経験してこられたことが、今も体に染み付いて行っておられるとのことでした。

また、「最初は、大変やし嫌やなあと感じることもあった。しかし、それをやらんことには、ここのご飯を食べるわけにはいかんという気持ちやった。」と言葉を続けられ、武男さんの想いが、毎日続ける原動力になっているように思いました。

「若い頃は酒を飲んで無茶して怪我ばかりしていたし、今、こうして健康で生活できているのが不思議なくらい。ありがたいことやと思っている

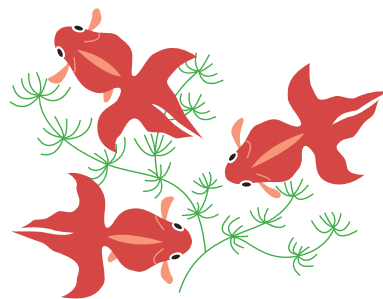
る。」と、しみじみ話された後、口を真一文字にしたその表情からは、今まで歩んできた道を、これまで通り肩肘張らずに進んでいこうという、堅い決意が感じられました。

現在、養護老人ホームでは、門掃きだけでなく、食堂の準備や後片付け、洗濯物たたみ、談話室やお風呂場の掃除など、多くの利用者さんが、『いつまでも元気でいたい。』『何かできることがあったら手伝いたい。』などさまざまな想いを胸に、日々行っておられます。皆さんがこのような自分のことのみならず、他の利用者さんのことであっても、積極的に協力して下さるのは、それぞれこれまで生きてこられた道があってこそだと思います。皆さんで協力しあっているからこそ、養護老人ホームの生活が成り立っていると言っても過言ではありません。ご縁があって洛東園で暮しておられる皆さん、これからも暮らしやすい生活の場となりますよう、職員もともに歩んでいきたいと思います。



□ もみじの家

共に歩んできた道、 そしてこれから…



ご姉妹の写真…豊国神社にて

今回は、人生を共に励まし合い、歩んで来られた北山さん(仮名)姉妹にお話を伺いました。

北山さんは、3歳の頃の発熱により、小児麻痺を発症し、現在は車椅子で生活されています。

内気な方で、もみじの家に来られた当初は遠慮がちで、あまりお話をされませんでした。そこで、私達は、昼食の盛り付けや手作りおやつのお手伝いなど、北山さんが楽しみながらできる事を探してみました。すると、「私にできるかしら…」と言いながらも、挑戦して下さいました。今では、職員とお喋りしながら、笑顔でお手伝いして下さっています。また、他の利用者さんとのお喋りを楽しまれたり、もみじで飼っている金魚に「元気でいてね。」と優しく話かける姿も見られます。

北山さんに、「これから何がしたいですか?」とお尋ねすると、「私は京都に住んでても、西も東

の方もあんまり行った事ないから、ようわからへん。これからは、色んな所に行ってみたいわ。」と仰いました。そこで、私達職員は、北山さんにお花見や、たくさんの景色を楽しんで頂けるよう、ドライブや散歩を計画しています。

「私達が歩んできた道は決して平坦でなかったね。辛いときもいっぱいあったね。お母さんの“いつも感謝の気持ちを忘れず、笑顔で過ごすのよ。”という言葉の励みにして、今日まで一緒に歩いて来たね。これからは、もみじさんとの出逢いを大事に、もっと元気に、ますます楽しく暮らそうね。」妹さんはそう言うと、北山さんと顔を見合わせ、にっこり顔きあっておられました。

利用者さんの、お一人おひとりが、色んな人生を歩んで来られたと思います。そこには、険しい道もあれば、なだらかな道もあったことでしょう。一歩一歩しっかりと踏みしめながら歩いて来られたからこそ、今があるのだと思います。私たち職員は、利用者さんと家族さんの“今”をしっかりと受け止め、それを“これから”に繋げて行けるよう支えていきたいと思っています。

賀正
もみじの家に
お世話になってから
姉は日々の生活に明るさを増し、
健康面でも安心を保てるようになり、
とても嬉しく、有難く思っています。



お正月にはこんな嬉しい
年賀状を頂戴しました。

■ 特別養護老人ホーム 洛東園

登山路



特別養護老人ホームに入所されている高橋さんに、「道」について尋ねると、「わしにとっての道は、登山路やな。山は変化するんやで。その変化を見るのが好きなんや。」と、話して下さいました。

現在68歳の高橋さんは、5年前、脳出血のため、左半身に麻痺が残りましたが、リハビリを受けて歩くことができるようになり、ご自宅に戻られました。しかし、家では思うように歩くことができず、転倒を繰り返して再度入院となり、2年前特別養護老人ホームに入所されました。

入所後、奥さんは、「病院にいた頃は、車いすで過ごしていたけど、ここで自由に歩いている姿を見ていると、ここに来られて良かったと思います。」と話されていました。

職員:「登山について、話を聞かせてください。」

高橋さん:「ええで。最初に登った山は、滋賀県にある比良山。高校生(16歳)の頃だったかな?歩くことと山が好きで、兄弟で登山をするきっかけとなってん。楽しかったな。けど、危ない思いもしてきたで。30cm程の岩が自分の立っている横の方に落ちてきたことがあって、びっくりした。それから、家族に迷惑をかけられないし、結婚を機に(30歳頃)険しい山を登ることは止めたんや。その後は、家族で登れる山によく行った。」

と、普段は無口な高橋さんが、生き生きとした笑顔で話して下さいました。

職員:「家族での登山も楽しそうですね。」

高橋さん:「もうこんな体になってしまったし、山には登れないな。けど、体力が落ちないように、歩く練習はしていきたい。」

と話されていました。

普段はお部屋で過ごすことが多く、奥さんや、たまに一緒に連れてこられる愛犬のチワワとゆっくり過ごす時間を楽しまれたり、クラシック音楽を聴いたり、テレビを観たりされています。そんな高橋さんですが、夜間フロアに人がいなくなると、黙々と懸命に歩く練習をしておられます。

これからも歩く練習を続け、階段があってもご自宅へ戻ることができ、家族や愛犬との団欒が続けられるよう、支援していきたいと思います。行く先が、山あり谷ありでも、変化を楽しみながら、共に歩いていきたいと思います。



S45.9 剣岳登山

洛東園の行事予定

施設名		月	4月	5月	6月
養護老人ホーム			花見会	日帰り旅行	映画上映会
特別養護老人ホーム	洛東園		花見	新緑会	*****
	修道 洛東園		お花見散策	入居者茶話会 (地域交流センターにて)	地域交流会
デイサービスセンター			お花見ドライブ	新緑会	家族交流会
もみじの家			花見	家族交流会	梅ジュース作り
全体			新人研修	新人研修	開山忌法要

..... その他、クラブなども随時行っております。

編集後記

今回のテーマは「道」です。

デイサービスに欠かせないのが、利用者さんの毎日の送迎です。

京都の道は、碁盤の目のように張りめぐられ、一見整っているように思われますが、一つそれと、細く、入り組んだ道が大変多くあります。

特に、東山区は、古い歴史をそのまま残した道が多く、一方通行や袋小路がたくさんあります。

そのため、デイサービスでは、運転を担当する職員と添乗員が、「どの道を通れば、安全で快適に送迎できるか。」を基準に、道順を決めています。

日々の送迎中の会話の一部を紹介いたしますと、

職員: 今から〇〇通りを通して△△へ参ります。

アサさん(仮名): それやったら、あそこを曲がっていったほうが早いよ。

ブンタさん(仮名): そやそや、この道は〇〇通りにつながってるんや。

チヨさん(仮名): この道は、地元の者しか知らん道やで。と、様々なアドバイスをいただくことがあります。

このような会話から教えていただいた道は、利用者さん自身の思い入れの深い道です。

「毎日学校へ通った道」、「子どもと遊んだ道」、「仕事でいつも使っていた道」など、利用者さんの歴史を刻んだ、様々な思い出話をしながらの送迎となります。

これからも、利用者さんの思いを大切に、皆様のところへと続く「道」を走ってまいります。

(デイサービス一同)

洛東園だより

発行／社会福祉法人 洛東園

〒605-0981 東山区本町15丁目794

電話番号:561-1171 FAX:531-8372

ホームページアドレス

<http://www.wf-rakutouen.com>

※尚、記事中の写真は全てご本人様、ご家族様の承諾を得て掲載しております。

寄付

吉田愛子様、松永洋子様、石居志郎様、古村聰様、盛光院様、本家八ツ橋西尾(株)様、海蔵院様、山元美代子様、田中在男様、月輪学区社会福祉協議会様、六波羅蜜寺様

寄付順

